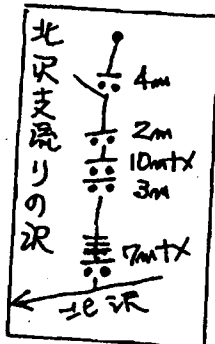


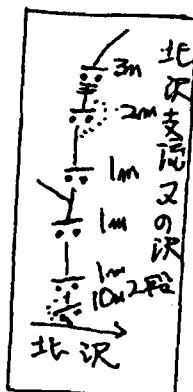
北沢支流りの沢 1989年7月8日

りの沢(仮称)も水量少なく、また短い。ここは出合にナメ滝をかけ、フリクションをきかせて登りきると、そのあともナメが続く。ナメが終わり、すこし歩くと、今度は小滝の連続である。4つ続く。いずれの滝もホールドが適当にあって、直登する。水量が少ないのが惜しい。ここで一気に高度をかせいでしまい、そのあとすぐ源頭となる。 (記・ 文)



[タイム] 遡行開始(10:45)→終了(10:55)

北沢支流ヌの沢 1989年7月8日



ヲの沢(仮称)から小尾根を越え急斜面を下って、ヌの沢(仮称)へ。この沢は水量も少なく、規模も小さい。ただ、出合に10m 2段の滝があるので、調査対象とした。

源頭の湧水地点から少し下ると3mの滝。左岸をクライミングダウンする。このあと1~2mの小滝が続き、やがて最後の滝。落差は10mくらい。左岸の樹林帯を下り、滝の中ほどに出て、あとはクライミングダウンして北沢本流へ。水量の少ない時なら、シャワーで直登することはできそうである。 (記・ )

[タイム] 下降開始(10:20)→終了(10:35)

北沢支流ルの沢右俣、左俣 1989年7月8日

8:45ルの沢(仮称)右俣に向けて下降開始。やぶ沢からガレ沢となり、滝一つからない。花崗岩に変われば何か何か出てくるさと考えながら先を急ぐ。やがて岩質が変わる。待望の花崗岩地帯。さあてとはりきったが、そこはもう左俣出合の直前であった。結局右俣には滝かからなかった。

二俣でいったん下降を中止して、左俣に入る。すぐに岩質が変わり、黒い変成